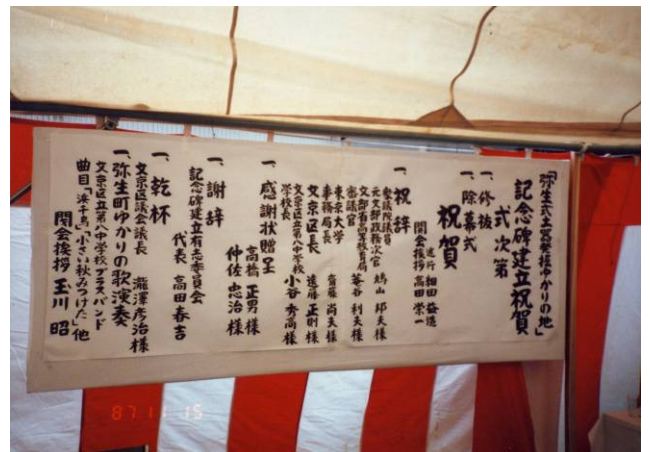


向ヶ岡弥生町

News Letter

VOL.7 2013年12月1日発行



「弥生式土器発掘ゆかりの地」碑 除幕式 1986年11月15日 写真提供 田仲博行氏

「弥生式土器発掘ゆかりの地」碑 除幕式

写真は向ヶ岡弥生町会 田中博行さん提供の1986年11月15日に行われた「弥生式土器発掘ゆかりの地」記念碑建立祝賀式の写真です。今年の根津神社例大祭翌日の鉢洗いで、向ヶ岡弥生町会の田仲さんから、碑の除幕式の写真があることをうかがいました。10月1日に写真が見つかったと田仲さんから連絡がありました。ちょうど浅野地区構内の

史跡の調査で弥生町内にいたので、すぐにうかがい写真をお借りしました。お借りした写真はデジタル化しました。記念碑建立祝賀式は国会議員、区長、大学関係者を招き盛大に行われました。式典では文京区立第8中学校ブラスバンド部による弥生町ゆかりの歌、「浜千鳥」「小さい秋みつけた」などの演奏が披露されました。

向ヶ岡弥生町の町名変更問題と評価

「建碑のこぼ」(3p)にある「行政措置」とは昭和30年代末、文京区が弥生式土器名称由来土器発見地とされる区域を「根津」へ編入、向ヶ岡弥生町会は区に対し反対運動を展開し、昭和42年に再変更されたものです。今年9月に亡くなった地名研究所の谷川健一先生は町名変更問題の経過と結果について、『現代「地名」考』(1981 1979 初版 NHK ブックス 337 日本放送出版協会発行 pp.160-164)の中で取り上げています。

昭和35年(1960)年度

「住居表示に関する法律」に先立ち自治省は三市区(荒川区・川崎市・塩竈市)で実験的町名地番整理事業を行う。()内市区名 原加筆。

昭和36年(1961)年度

五市(福岡市・甲府市・伊勢崎市他)で実験的町名地番整理事業を行う。()内市区名 原加筆。

昭和38年(1963)年、昭和42年度中

住居表示事業を完了する計画を実施に移す。住居表示協力会(関連民間企業、団体で結成)によるPR活動、町内会などによる住民の説得。各市区に郵便局長、消防署長、警察署長、連合商店会長などに委託した住居表示審議会の設置などによる住居表示事業を行う。

昭和39年(1964)

文京区議会は「向ヶ岡弥生町」を弥生一、二丁目および根津二丁目へ変更することを決議。根津二丁目に入る予定の地区から町名をとって「弥生式土器」と名付けられた土器発見地(推定地)が根津へ変更されることが報道される。各界に大反響が起こる。

昭和40年(1965)3月1日

団藤重光(東大教授)、勝本正晃(東北大学名誉教授)、サトウハチローなど住民83人が「町区域名称改変変更処分取消し請求」を文京区長に対して行政訴訟を起こす。

話し合いの成立 太田博太郎 1978 「弥生町OB奮戦記」『伝統と現代第35号』より

- (1) まず、元の弥生町と根津の間の崖下を通る私道を区が買い上げて区道とし、この区道をもって弥生と根津の境界とする。
- (2) 住民側は行政訴訟を取り下げる。

昭和42年(1967)1月1日

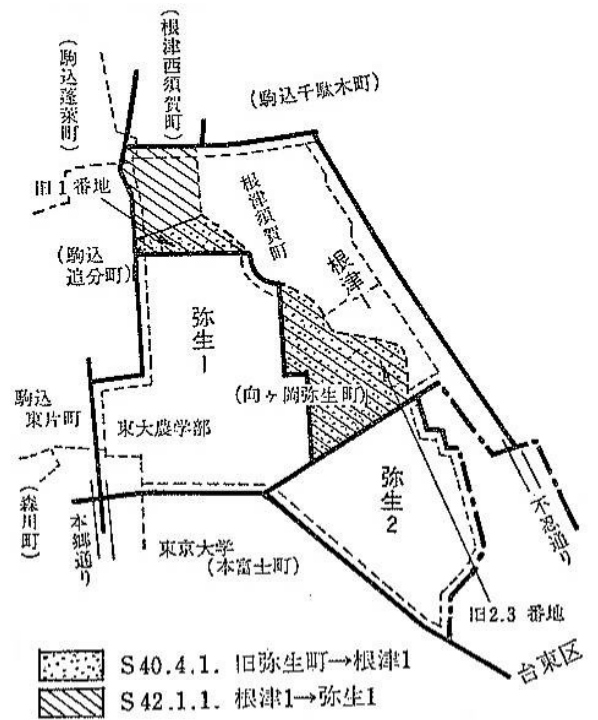
根津二丁目に組み入れられていた旧弥生町二、三番地を、地方自治法二六〇条のより改めて町の区域・町名の再変更を行う。

昭和42年8月10日

「住居表示に関する法律の一部を改正する法律」成立。

谷川先生は向ヶ岡弥生町会の運動を「東京都内および全国各地の住民を大きく勇気づけました。当局側の町名変更案を知ると、すぐ町内会などの住民組織が変更反対運動に立ち上がり、案を撤回させたり、

よりましな代案に変えさせたりする成果があちこちで得られました」と述べ高く評価しています。



谷川健一編・著 1981『現代「地名」考』NHK ブックス 337 1979 初版 日本放送出版協会発行 pp.160-164 より複写

向ヶ岡弥生町の新旧町界

弥生美術館初代館長 鹿野琢見さんは『法のまにまに』で町名変更の裁判と町名の復活について述べています(Vol.5 参照 鹿野琢見 著 1982『法のまにまに』海竜社発行 四八・六、東京小石川 R・C 週報一四八号)。旧町名について「向ヶ岡弥生町」を元のままの町名にすることまでは法律上も事実上も無理だった。そこでせめて任意団体の町内会の名称だけは「向ヶ岡弥生町」することにし、区もこれを公認している。私は、近い時期に改めて「向ヶ岡」の名称も将来に残すための方法を、旧一高会の方々や町内会の人々の協力をえて実現すべく別途検討中である。」と述べています。鹿野さんの考える「(旧町名を) 将来に残すための方法」は具体的にどういった事だったかは分かりませんでした。しかし、昨年の根津神社の例大祭から、町会の法被は弥生二丁目を示す「弥生二」から旧町名と町会名の「向ヶ岡弥生」に変更されました。鹿野さんをはじめ、当時、町名変更問題に関わった多くの方々の思いを向ヶ岡弥生町会は継承しています。



以前の法被



新しい法被

向ヶ岡弥生町会の法被 写真提供 山田しげる氏

現在の「弥生式土器発掘ゆかりの地」碑

現在、「弥生式土器発掘ゆかりの地」碑は観光地図、文京区ホームページだけでなく、考古学の専門書の中でも紹介されています。街歩きのグループが碑の前に集まっているのも良く見かけます。建立当時の浅野地区のコンクリートの塀は撤去され、金属製の柵に変わり碑の周りの雰囲気は明るくなりました。碑の表面はおよそ30年を経て良い雰囲気になりました。史跡見学でこの碑は町会有志による建立と解説すると、碑の建てられた敷地は東京大学敷地のため、東京大学が建立したと思っている方、多いようです。碑の裏面に刻まれている「建碑のことは」は見逃す方も多いので掲載します。

建碑のことは

弥生式土器は、ここ向ヶ岡弥生町(現・弥生2丁目)内の数カ所から初めて出土発見され、町名を冠して「弥生式」と名付けられました。

遠いむかし、人々はこの辺りに住みつき、日本文化の曙を告げたのです。弥生式土器、向ヶ岡遺跡の発見によって、弥生時代という重要な文化期の存在が知られました。私たちは、こうした歴史の壮大で匂やかなロマンを憶いふるさどわが町の誇りを語り継ぎ、出土と命名の史実を末永く顕彰するため、この記念碑を建てました。

昭和39年(1964)行政措置により、この町は弥生2丁目と変わりましたが、町会名は歴史的な名を継承しております。

昭和61年(1986)夏7月吉日 向ヶ岡弥生町会有志
高橋石材 刻



建立時、碑の横の木を伐採するかどうか検討し残すことになったそうです。現在、木は成長し碑と飛石を圧迫しています。碑と木の間隔が狭くなり根は碑の下を通り、飛び石の一つは根によって盛り上がっています。剪定後の養生が十分でなかったため樹の表皮は剥がれ、木の内側の腐食が進行しています。倒木による碑の破損が心配です。

「弥生式土器発掘ゆかりの地」碑 2013年11月8日



市川市博物館拓本部会見学会 2012年9月30日

弥生町ゆかりの歌 ♪ 浜千鳥 ♪ 小さい秋みつけた

「弥生式土器発掘ゆかりの地」記念碑建立祝賀式式辞の「弥生町ゆかりの歌」2曲は、向ヶ岡弥生町在住だった弘田龍太郎、サトウハチローの作品です。サトウハチロー旧宅跡にあった記念館は岩手県北上市に移転、1996年、記念館が開館します。現在、駐車場になった旧居跡には碑と解説板が設置されています。「小さい秋みつけた」3番の歌詞にある「はぜ」(ハゼノキ)はウルシ科ウルシ属の落葉小高木で、実は木蠟の材料になります。歌詞にあるようにサトウハチローの仕事部屋からよく見えたそうです。旧宅は壊されましたが、「はぜ」は東京文京区春日の礪川公園に移植、根付くかどうか心配されましたが、この時期真っ赤な紅葉を見せます。

弘田龍太郎の墓は谷中全生庵、サトウハチローの墓は雑司ヶ谷霊園にあります。

【 ♪ 浜千鳥 】 鹿島鳴秋作詞 弘田龍太郎作曲

青い月夜の 浜辺には
親をさがして 鳴く鳥が
波の国から 生まれ出る
ぬれた翼の 銀のいろ

夜鳴く鳥の かなしさは
親をたずねて 海こえて
月夜の国へ 消えてゆく
銀の翼の 浜千鳥



谷中全生庵 東京都台東区谷中5丁目4-7

弘田龍太郎の墓 2013年10月14日

【♪ 小さい秋みつけた】 サトウハチロー作詞 中田喜直作曲
 誰かさんが 誰かさんが 誰かさんが みつけた
 ちいさい秋 ちいさい秋 ちいさい秋 みつけた
 めかくし鬼さん 手のなる方へ 澄ましたお耳に かすかにしみた
 呼んでる口笛 もずの声
 ちいさい秋 ちいさい秋 ちいさい秋 みつけた

誰かさんが 誰かさんが 誰かさんが みつけた
 ちいさい秋 ちいさい秋 ちいさい秋 みつけた
 お部屋は北向き くもりのガラス うつろな目の色とかしたミルク
 わずかなすきから 秋の風
 ちいさい秋 ちいさい秋 ちいさい秋 みつけた

誰かさんが 誰かさんが 誰かさんが みつけた
 ちいさい秋 ちいさい秋 ちいさい秋 みつけた
 昔の昔の 風見の鳥の ぼやけたとさかに はぜの葉ひとつ
 はぜの葉あかて 入日色
 ちいさい秋 ちいさい秋 ちいさい秋 みつけた



弥生町から文京区礪川公園へ移植されたハゼノキ
 2013年11月21日

修復のお仕事展Vワークショップ

芸工展参加企画、修復のお仕事展Vを台東区上野桜木の旧平櫛田中邸で開催しました。会期は10月13日から20日。壁画、絵画、布、紙など様々な分野の修復家の方々と展示を行いました。入場者は431名、でした。今回、水戸藩駒込邸の庭園、東京大学の史跡、武蔵野文化財修復研究所 石原道知さんと共同で考古資料の保存修復の展示を行いました。10月13日と20日は恒例になった「向ヶ岡」と「忍ヶ岡」を巡るワークショップを開催しました。向ヶ岡弥生町会からもたくさんの方に参加いただきました。ありがとうございました。



修復のお仕事展Vワークショップ2013年10月13日

信濃デッサン館 立原道造記念展示室

11月4・5日、農学部の基快久さんを中心に活動している「チーム平和！」平和を考える見学会に参加しました。長野の松代大本営跡・無言館・信濃デッサン館を訪れました。無言館は戦没画学生の絵画や彫刻などの遺作、手紙などを収蔵展示する美術館、隣接する信濃デッサン館は若くして亡くなった画家のデッサンを中心に展示。弥生町の立原道造記念館の資料はデッサン館に収蔵され、立原道造記念展示室が新設されました。弥生町の展示は建築関係資料の展示が中心だったそうですが、デッサン館は絵画作品が中心。パステルの優しい作品に癒されました。



信濃デッサン館 2013年11月4日

編集後記

今回、町会の田中さんから碑の除幕式の写真をお借りしました。自宅に古い写真がありましたら原まで連絡ください。東京大学農学部の歴史を調べている農学生命科学研究科応用生命工学専攻の清水謙多郎先生が言問い通りの道幅拡張前の写真を探しているそうです。こちらもお持ちでしたら連絡ください。ニュースレターの写真掲載にあたって埋蔵文化財調査室の青山正昭さん、向ヶ岡弥生町会の田仲博行さん、谷根千ウロウロの山田しげるさんにお世話になりました。ありがとうございました。

向ヶ岡弥生町

News Letter

VOL.7 2013年12月1日発行

発行 原 祐一

連絡先 〒153-8904

東京都目黒区駒場4-6-1 東京大学埋蔵文化財調査

携帯 080-5504-9782

メール y-hara@dolphin.ocn.ne.jp

印刷 株式会社 芳文社

〒194-0037

東京都町田市木曽西2-3-14 電話 042-792-3100